

# Forms と Power Automate を活用した授業評価アンケートの運用

赤間 尚希<sup>1)</sup>

1) 福岡歯科大学 教育支援・教学 IR 室事務室

akama@fdcnet.ac.jp

## Utilizing Forms and Power Automate for the operation of course evaluation surveys.

Naoki Akama<sup>1)</sup>

1) Educational Support and Instructional Research Office.

### 概要

福岡歯科大学では、令和元年度から Web で授業評価アンケートを行っている。回答率を高めるために、事務担当者からアンケートに回答するようにフォローメールを何度か送信しているが、全学生を対象に送信しており、既にアンケートに回答済みの学生の評判が悪かった。しかしながら、各授業アンケートの回答状況を個別に確認し、未回答の学生を特定したうえでフォローメールを送信するのは、業務的に煩雑で時間がかかる。これらの課題を解決するために、Microsoft Forms と Microsoft Power Automate を用いて授業評価アンケートを収集する仕組みと、未回答の学生に限定してフォローメールを送信する仕組みを構築したので、その事例について報告する。

## 1 はじめに

福岡歯科大学は、歯科学を専門とする単科大学で約 520 名の学生が在籍している。本学では 141 科目の授業を開講しており、継続的な教育改善活動の一環として授業評価アンケートを活用している。学生が回答したアンケート結果を授業担当者が確認し、担当授業の改善事項を FD 委員会へ提出するという授業改善のサイクルを機能させている[1]。

令和元年度から、運用の効率化やペーパーレス化による経費の削減を目的に、マークシートで回収していた授業評価アンケートを Web で回収する方式に変更した。しかし、Web へ変更したことをきっかけに、それまで 70%~80% 程度あった回答率が 30%~50% 程度に下がってしまった。回答率を高めるために、事務担当者から学生にフォローメールを送信しているが、全学生を対象に送信しているため、既にアンケートに回答済みの学生の評判が悪かった。しかしながら、各授業のアンケートの回答状況を確認し、未回答の学生を特定したうえで個別にフォローメールを送信するのは、業務的に煩雑で時間がかかってしまう。

そんな中、福岡歯科大学に Microsoft365 が導入

され、アンケートの実施手段に Forms という選択肢が増え、タスクを自動化できる Power Automate が利用できる状況になった。教育支援・教学 IR 室事務室は、これらのツールを用いて授業評価アンケートを収集し、未回答の学生に限定してフォローメールを送信する仕組みを構築した。本稿では、この仕組みの全体構成と構築方法の概要について報告する。

## 2 本事例で利用したツール

本事例では、Microsoft365 が提供する Forms と、Power Automate を主に利用している[2]。その他には SharePoint、Outlook、Excel を利用している。

### 2.1 Microsoft Forms

Forms は、Microsoft が提供するオンラインアンケート作成ツールである。簡単な操作で Web アンケートフォームを作成でき、結果を Excel 等の形式で保存できる。

### 2.2 Microsoft Power Automate

Power Automate は、特定のイベントや条件が発生したときに、タスクを実行するようなフローを作成できる。また、繰り返し発生するようなタスクを自動化するフローを作成できる。

### 3 Forms と Power Automate を活用した授業評価アンケート運用の全体構成

本事例の全体構成図を図1に示す。

- ① 学生が Forms で作成された授業評価アンケートに回答すると、Power Automate がそれを検知し、SharePoint 上の管理表 (Excel) に回答実績を登録する。
- ② 職員は SharePoint 上の管理表 Excel で学生がどの授業アンケートに回答しているか状況をリアルタイムで確認できる。
- ③ 職員は事前に設定された Power Automate のフローを手動で実行することで、アンケートを回答していない学生に限定して、回答を促すフォローメールを送信できる。本学では、学生の回答状況を確認しながら、状況に応じて手動で実行していたが、設定した日時でフローを自動実行するような設定も可能である。

### 4 構築方法

#### 4.1 Forms で授業評価アンケートフォームを作成

学生に回答させたいアンケートフォームを作成する。Forms<sup>1</sup>にアクセスし、「新しいフォーム」をクリックすると、フォームのタイトルや設問内容、選択肢を入力できる画面が表示されるので任意に設問項目等を設定する (図2)。

また、Power Automate の設定時に必要なため、作成したフォームの URL の『&id=』以降の文字列をコピーして控えておく。



図2 Forms 入力前 (上) 入力後 (下)

<sup>1</sup> Forms : <https://forms.office.com>

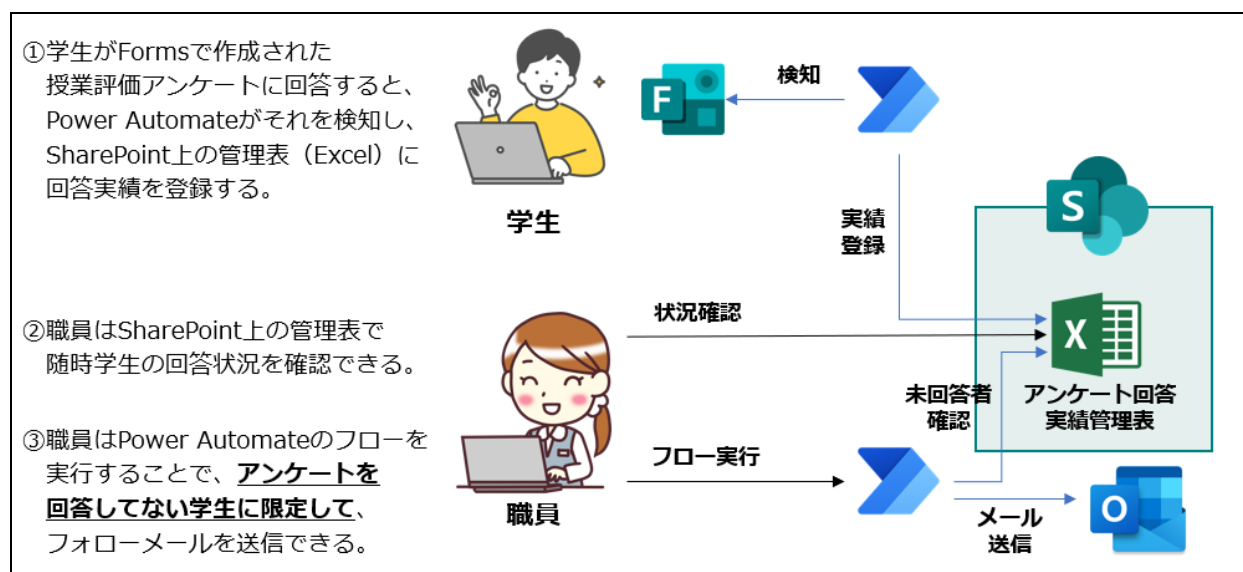


図1 Forms と Power Automate を活用した授業評価アンケート運用の全体構成

## 4.2 Excel で学生[行]×授業科目[列]で構成される管理表を作成し、SharePoint 上に配置

教務システムから情報を得るなどして、学生情報と授業科目情報を準備する。その情報を基に Excel で学生[行]×授業科目[列]で構成される管理表を作成し、SharePoint 上に配置する。管理表には「学籍番号」、「氏名」、「学生のメールアドレス」、「授業科目」の列が必要である。このうち、「授業科目」は必要な数だけ列を設定する。また、この管理表にはテーブル名を定義しておく（図 3）。

| 学籍番号 | 氏名 | mail | 精神医学・心身医学 | 麻酔科学 I | 口腔外科学 I |
|------|----|------|-----------|--------|---------|
|      |    |      | ○         | ○      | ○       |
|      |    |      | 未         | 未      | 未       |
|      |    |      | 未         | 未      | 未       |
|      |    |      | 未         | 未      | 未       |
|      |    |      | 未         | 未      | 未       |

図 3 学生×授業科目で構成される管理表

## 4.3 学生のアンケート回答をトリガーに管理表を更新するフローを Power Automate で作成

Power Automate<sup>2</sup> にアクセスし、「学生のアンケート回答をトリガーに管理表を更新するフロー」を作成する（図 4）。

- ① 「Forms の新しい応答が送信される時」トリガーを選択し、フォーム ID に 4.1 で控えた『&id=』以降の文字列を入力する。
- ② 「Forms の応答の詳細を取得する」アクションを選択し、①と同様にフォーム ID に 4.1 で控えた『&id=』以降の文字列を入力する。
- ③ 「Excel の行の更新」アクションを選択し、4.2 で作成した管理表を項目『場所・ドキュメントライブラリ・ファイル・テーブル名』で指定する。そして、キー列には mail（学生のメールアドレス）を指定し、キー値には Responders' Email を指定する。ここまでの操作で、管理表のどの行（学生）を対象に更新するかを特定できたことになる。キー値の下からは、管理表に記載した授業名が表示されているので、対象のアンケート

フォームで評価される授業の項目に「○（アンケート回答済を示す記号）」と入力する。

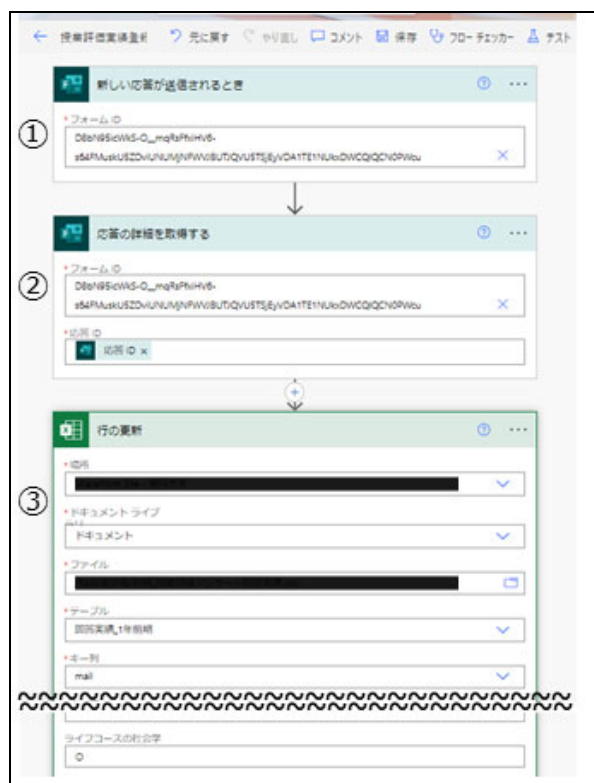


図 4 学生のアンケート回答をトリガーに管理表を更新するフロー

## 4.4 アンケート未回答者に限定してメールを送信するフローを Power Automate で作成

Power Automate で作成したアルゴリズムのフローチャートを図 5 に示す。

Power Automate の「表内に存在する行を一覧表示」アクションを用いて 4.2 で作成した管理表を指定する。その後は図 5 のフローチャートのとおり Power Automate のコントロールアクションで繰り返し処理、条件分岐処理を利用し、授業評価アンケート未回答者に限定してメールを送信する処理を構築していく。Power Automate では、Microsoft365 のアカウントでメールを送信するためのアクションも準備されており、これらの処理をコーディングせず GUI で完成させることができる。

<sup>2</sup> Power Automate : <https://make.powerautomate.com>.

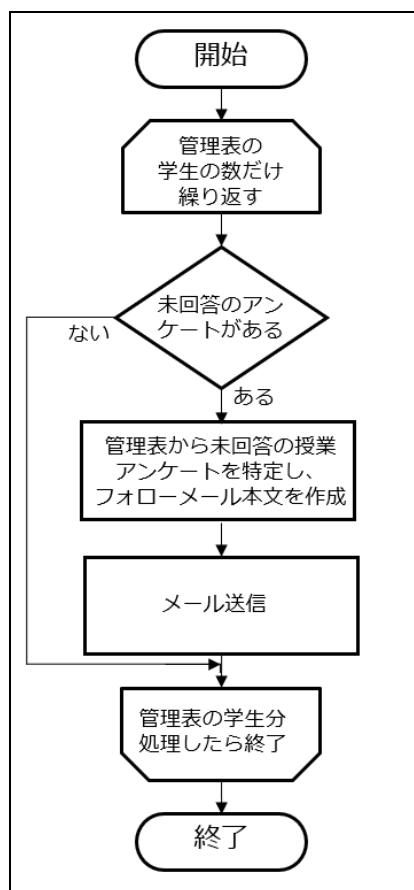


図5 未回答者にアンケート回答を促すメールを送信するアルゴリズムのフローチャート

## 5 まとめ

Microsoft365を導入している組織であれば、4章に記載した手順で、本事例と同様の仕組みを無償で構築できる。しかし、4.1のフォームと4.3のフローは、アンケートを取得する授業の数だけ作成する必要があり、対象授業が141の本学でも準備に15時間程度の時間が必要だった。そのため、授業数が500を超えるような単位でアンケートを管理する必要がある場合は、本事例のような取り組みをするのは困難かもしれない。

Microsoft365を導入しており、授業数がそれほど多くなく、無償で授業評価アンケートの運用を効率化したい組織において、本事例が少しでも参考になれば幸いである。

FormsとPower Automateを活用して授業評価アンケート運用を効率化した結果、アンケート回答済みの学生に対して、不要なフォローメールが送信されなくなり、学生に対するサービス品質を高

めることができたと考えている。また、未回答者に対するメール本文の冒頭に、従来のような「学生各位」という表現ではなく、「〇〇様」と個人の宛名付きのメールが送信されるようになった。これにより、学生への訴求力が高まったのか、アンケートの回答率が令和4年度の30%~50%程度から、令和5年度前期は40%~80%程度へと全体的に高まった。今後は、別の観点からも授業評価アンケートの回答率を高める施策を実施していく予定である。

## 参考文献

- [1] 福岡歯科大学 FD 委員会 令和4年度「学生による授業評価」報告書作成部会、福岡歯科大学 令和4年度「学生による授業評価」報告書、福岡歯科大学 FD 委員会、2023.
- [2] 西岡 真樹・北端 智・福田 健吾、ひと目でわかる Microsoft 365 ビジネス活用編、日経BP、2022.